

**天草地域におけるシストセンチュウ抵抗性バレイショ品種「アイユタカ」の特性**

「アイユタカ」の上いも重は、「デジマ」に比べ春作では少なく、秋作では多い傾向にある。春作において、基肥窒素量の慣行 2.0kg/a を増肥すると、上いも重が増加するが、増肥効果は、2.5kg/a までであり、それ以上では増加しない。

農業研究センター天草農業研究所 (担当者: 堤 泰之)

**研究のねらい**

天草地域では、海岸島しょの温暖な気候を活かして秋作および春作バレイショの栽培が行われている。近年、西九州のバレイショ産地では、シストセンチュウの確認地域が拡大しており、シストセンチュウ抵抗性品種の導入が図られている。また、県内の一部地域でもシストセンチュウの発生が確認されている。そこで、シストセンチュウ抵抗性を持ち、いもの品質が慣行品種「デジマ」と同等と見られるバレイショ品種「アイユタカ」について、天草地域に於ける栽培特性を明らかにする。

**研究の成果**

1. 秋作の「アイユタカ」の栽培期間は、「デジマ」と同等である(表1)。生育は、「デジマ」に比べて茎長が長く、株当たり茎数が少ない。秋作の上いも重は、「デジマ」に比べて多い傾向にある(表2)。
2. 春作の「アイユタカ」は、「デジマ」に比べて出芽に要した日数がやや長い。栽培期間は、「デジマ」に比べて短い(表3)。生育は、「デジマ」に比べて茎長が同等から短く、株当たり茎数が少ない。上いも重は、「デジマ」に比べて少ない(表3)。
3. 春作の基肥窒素量は、慣行の 2.0kg/a より多くすると、上いも重は増加する。しかし、増肥効果は 2.5kg/a までであり、それ以上に増肥すると、茎長が長く地上部の生育は旺盛となり、上いも重は増加しない(表4)。
4. 「アイユタカ」の外観は、「デジマ」に比べて凹凸が少なく平滑である(図1)。

**普及上の留意点**

1. 本試験は、天草農業研究所内の露地畑で行った。
2. 栽植様式は、畝間 60cm×株間 25cm (栽植密度 666.7 株/a) とした。
3. 施肥は、 $N:P_2O_5:K_2O=2.0:2.5:2.0$  を慣行とし、アンモニア態窒素を含む化学肥料を用いた。窒素成分を増肥した場合は、他の成分も同比率で増肥した。

【具体的データ】

No. 616 (平成 25 年 5 月) 分類コード 01-04 熊本県農林水産部

表1 秋作における栽培期間

品種	年度	植付日	出芽期	出芽に要した日数	収穫期	栽培期間
		月/日	月/日	日	月/日	日
アイユタカ	H21	9/16	-	-	12/17	92
	H22	9/17	10/4	17	12/16	90
	<b>平均</b>			<b>17</b>		<b>91</b>
デジマ (慣行)	H21	9/16	-	-	12/17	92
	H22	9/17	9/29	12	12/13	87
	<b>平均</b>			<b>12</b>		<b>90</b>

※収穫は、茎葉が黄化した黄変期に行った。

表2 秋作における生育と収量(秋作普通栽培)

品種	年度	茎長	茎数	上いも数	上いも重	平均
		cm	本/株	個/株	kg/a	1個重 g/個
アイユタカ	H21	39.2	3.3	5.6	381	113
	H22	53.4	2.2	4.6	498	161
	<b>平均</b>	<b>46.3</b>	<b>2.7</b>	<b>5.1</b>	<b>439 (131)</b>	<b>137</b>
デジマ (慣行)	H21	35.3	3.5	3.6	201	93
	H22	48.7	3.5	4.1	469	172
	<b>平均</b>	<b>42.0</b>	<b>3.5</b>	<b>3.9</b>	<b>335 (100)</b>	<b>132</b>

※ ( ) 内は、「デジマ」を100とした時の割合。

※上いも重は、1個あたり30g以上のいもの合計重量。

※調査株数：40株/区

表3 春作における植付日と出芽期および収穫期

品種	年度	植付日	出芽期	出芽に要した日数	収穫期	栽培期間
		月/日	月/日	日	月/日	日
アイユタカ	H22	1/28	3/4	36	5/25	118
	H23	1/23	3/5	42	5/16	114
	<b>平均</b>			<b>39</b>		<b>116</b>
デジマ (慣行)	H22	1/28	3/2	34	5/30	123
	H23	1/23	3/2	39	5/23	121
	<b>平均</b>			<b>37</b>		<b>122</b>

※収穫は、茎葉が黄化した黄変期に行った。

表4 春作における生育と収量(春作マルチ栽培)

品種	年度	茎長	茎数	上いも数	上いも重	平均
		cm	本/株	個/株	kg/a	1個重 g/個
アイユタカ	H22	24.6	6.2	5.4	302	84.8
	H23	48.3	5.2	7.5	374	74.5
	<b>平均</b>	<b>36.4</b>	<b>5.7</b>	<b>6.4</b>	<b>338 (66)</b>	<b>79.6</b>
デジマ (慣行)	H22	31.8	9.6	8.2	555	101.4
	H23	48.5	8.0	7.8	466	89.9
	<b>平均</b>	<b>40.1</b>	<b>8.8</b>	<b>8.0</b>	<b>510 (100)</b>	<b>95.6</b>

※ ( ) 内は、「デジマ」を100とした時の割合。

※調査株数：40株/区

表5 基肥窒素量が「アイユタカ」の生育および収量に及ぼす影響(春作マルチ栽培)

年度	窒素量	茎長	茎数	上いも数	上いも重	平均
	kg/a	cm	本/株	個/株	kg/a	1個重 g/個
H22	1.5	23.7	6.9	5.5	274 (91)	74.8
	2.0	24.6	6.2	5.4	302 (100)	84.8
	2.5	29.9	7.3	6.2	369 (122)	90.0
H23	2.0	48.3	5.2	7.5	374 (100)	74.5
	2.3	46.1	6.3	7.6	387 (104)	76.2
	2.5	52.1	6.0	7.6	397 (106)	78.9
	2.8	55.5	5.9	7.4	382 (102)	77.1
	3.0	59.7	5.9	7.9	393 (105)	74.6

※ ( ) 内は、同年の基肥チッソ量2.0kg/a区 (慣行区) を100とした時の割合。  
※調査株数：40株/区



図1 収穫したいもの外観 (H22年春作)

左：「デジマ」、右：「アイユタカ」